

# 平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	千葉県教育委員会
-------	----------

## I 概要

### 1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="checkbox"/>	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input checked="" type="checkbox"/>	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
千葉県	高等学校	定時制	ちばけんりつふなばしこうとうがっこう 千葉県立船橋高等学校

### 2 研究課題

定時制高等学校普通科における発達障害を含む障害のある生徒のキャリア教育の在り方について、生徒、職員、学校体制の3方向へのアプローチをすることで具体的に有効な方策を探る。

### 3 研究の概要

近年本校には、働きながら学ぶ生徒だけでなく、不登校を含む長期欠席経験者、何らかの理由による学力不振や高校中途退学経験者が数多く学び直しを目指し入学してくる。集団不適應や学習不適應、人間関係の構築が苦手といった生徒の実態を踏まえると、発達障害等に限定せずインクルーシブ教育の視点に立った実践が本校キャリア教育の拡充につながるものと考えた。研究は、①生徒へのアプローチ、②職員へのアプローチ、③学校体制へのアプローチという3つの柱からなる。具体的に①としては「入学前アンケート（得意なこと、苦手なことアンケート）」、「菊池社会的スキル尺度（KiSS-18）」<sup>1</sup>、「学校環境適應感尺度（ASSESS）」<sup>2</sup>、職業レディネステストなどの検査、特別支援学校や県教育委員会の協力を得ての専門家による生徒理解促進、ソーシャルスキルトレーニング（SST）やキャリア支援（進路ガイダンスや講演会）などを行った。②としては特別支援教育への理解を深めるための職員研修会の開催、年間10回以上の特別支援教育委員会による情報共有や方針確認などを行った。③として各教室への連絡用ホワイトボード設置、「入学生サポートシート」による中学校との連携、「就労振り返りシート」による生徒の自己理解促進、「板書の色使いに関する基準」「着任職員への実践紹介文書」による指導の継続性確保、「就職支援コーディネーター」の活用実践、「進路支援マップ」作成、ハローワークとの連携、中途退学生徒への就労支援アイテムや個別の指導計画を検討した。

<sup>1</sup> 菊池章夫（1988）『思いやりを科学する』 川島書店

<sup>2</sup> 栗原慎二、井上弥 編著（2013）『Excel2013 対応版 アセス（学級全体と児童生徒個人のアセスメントソフト）の使い方・活かし方 自分のパソコンで結果がすぐにわかる』 ほんの森出版

#### 4 研究の成果

生徒へのアプローチでは、年度始めに KiSS-18 の得点が低かった生徒達に総合的な学習の時間で SST を実施した結果、得点が高くなった。また、入学前アンケートでの「気になる生徒」と「学校環境適応感尺度 (ASSESS)」の結果に相関がみられたことから、特に入学年度には複数の調査を実施し関連づけて生徒理解を進めることの意義を再確認できた。さらに、特別支援学校や県教育委員会から派遣された特別支援教育の専門家による生徒観察を経ての事例検討会は、本校職員にとって重要な知見を得る機会となった。

職員へのアプローチでは、発達障害の理解やキャリア教育に関する講義・演習に全職員が取り組んだ結果、生徒の情報交換の際に支援、自立、就労、自己理解、SST といった用語が頻繁に用いられるなど職員の意識改革に大きな効果があった。校内の特別支援教育委員会が情報交換、情報収集、共有すべき内容、周知内容、実践内容の吟味等の場として定着し情報を整理して伝えられるようになった。

学校体制へのアプローチでは、「連絡用ホワイトボード」設置や「板書の色使いに関する基準」作成といった授業のユニバーサルデザイン化に発展した。今回配置された「就職支援コーディネーター」は卒業生の就職先訪問や在校生のハローワークへの引率をはじめ外部機関との橋渡し役としてケースワーク的に生徒と関わるのが有効であった。更に、ハローワークとの連携により、学校斡旋で就職を希望する生徒の 100% が就職内定を得ることができ、進学も含めると卒業時の進路決定率は 88.2% に至った。(H26 年度：卒業生 51 名中、就労 34 名、進学 11 名、H25 年度：卒業生 57 名中、就労 24 名、進学 21 名・進路決定率 78.9%)

#### 5 課題と今後の方策

高等学校教育の在り方については、大学教育の在り方や高等学校と大学との接続の在り方等も含め、将来を見据えた論議が進められているが、現実の各高等学校には、実に多様な生徒が学習し生活している。こうした多様な生徒一人一人のキャリア形成を図り社会に送り出していくこと、すなわち、すべての生徒に、個性に応じて将来の進路を決定させることは高等学校における大きな目標の一つである。この目標を実現するためには、大きな制度論に加えて、職員がスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、就職支援コーディネーターなどの知識や技能を有する専門家と連携できる環境を整えていくことが必要なことである。

一方で、SST 実施に際しては、神戸大学大学院鳥居教授との連携により、KiSS-18 の解析結果をもとに生徒のニーズの高いテーマを設定した。今後本校独自の SST を作成するにあたり、今回実施した「入学前アンケート(得意なこと、苦手なことアンケート)」に加え、本年度就職支援コーディネーターが提案し実施分析した「ASSESS」など生徒の実態把握のためのツールを職員が活用できるようになることも課題となろう。以上に加え、今年度の新しい取組として始めた、中学校から入学生の情報を得るための「入学生サポートシート」や前述の「ASSESS」を活用しての個別の指導計画の作成に役立てることは、今回の研究テーマである定時制普通科高等学校における発達障害を含む障害のある生徒のキャリア教育の在り方を考えるうえで有効な方策といえよう。